

持続可能な出荷体制を目指す『揖保乃糸』の鉄道輸送

兵庫県たつの市に本部を置く兵庫県手延素麺協同組合は、手延べそうめん『揖保乃糸』の生産者でつくる事業協同組合だ。1887(明治20)年に設立され、現在約380名の生産者が加盟している。組合は製品の品質管理を軸に、原材料や副資材の仕入れ、製品のブランディング、販売促進などを手掛け、生産者が高品質な製品づくりに専念できる体制を整えている。海外市場への展開にも注力し、展示会への出展等を通じて『揖保乃糸』の魅力を広めている。



営業部の長谷川邦男総合アドバイザーは『『揖保乃糸』の製造時期は10月から4月末までで、その前後の時期に冷麦や中華種などの関連商品を製造し

ています。組合の検査指導員による検査に合格した製品を、各支部の製品倉庫に集約し、一定期間熟成した後、翌年に全国の卸問屋や小売店の物流センターへ出荷します」と製品について説明する。

出荷最盛期は3月中旬から9月。近年の気温上昇に伴い、そうめんの消費時期が延びているという。出荷はスーパー等の売り場に夏物商品が並び始めるゴールデンウィーク前と7月にピークを迎え、多い日は1日約2万個の段ボールケースを発送する。

出荷量全体の約60%を12ftコンテナによる鉄道輸送が占め、路線トラックが約25%、残りの約15%は10tトラックでの輸送となっている。

営業部の池上靖明次長は「組合では、JR姫新線



長谷川総合アドバイザー



伝統的な手延べ技法で作る『揖保乃糸』

を貨物列車が走っていた時代から鉄道輸送を使い続けています。昔からある倉庫はJRの主要駅に立地していて、線路側に付いた扉に、かつて貨車に直接積み込んでいた頃の名残があります」と話す。

現在、コンテナで出荷している製品倉庫は林田支部、神岡支部、新宮支部の3カ所。いずれも姫路貨物駅に近く、1日2往復の集貨が可能だ。集貨は姫路倉庫運輸(株)、日本通運(株)の集配トラックが担う。

長谷川総合アドバイザーは「鉄道は主に関東や北海道、福岡といった遠方への輸送に使っていますが、最盛期は大阪や広島向けでもコンテナを活用します。北海道は物量が多いこともあり、東京向けと比べても製品1個あたりの輸送コストにそれほど差がないので、特に使いやすさを実感しています。配達先ごとの出荷データをシステム管理しており、1カ月の小口注文がある程度の量になっているお客さまに、鉄道コンテナでの納品をご提案することもあります」と話した。



荷揃えた製品を両面から3パレットずつコンテナへ



配達先まで封印



林田支部の製品倉庫から姫路貨物駅に向かう姫路倉庫運輸の集配トラック

レンタルパレットによるコンテナ出荷を開始

林田支部、神岡支部、新宮支部の製品倉庫は、2003年以降、トレーサビリティシステムを導入した立体自動倉庫へと増築・改修を行った。自動倉庫の製品は14型パレットで管理し、11型パレットで出荷する際にパレットチェンジャーを利用して移し替えている。

「コロナ禍の少し前から、運送業界も労働力不足と働き方改革の影響が強まり、配送業者から『手荷役は配達できない』との連絡が相次ぐようになりました。代替業者も見つていくく、トラックの手配に時間がかかる事態が続いたため、最初にトラック輸送のパレット化を進めました。パレットチェンジャーを導入するまでは、作業員がストレッチフィルムを外し、手作業で11型パレットに積み直して再びフィルムを巻いていたので、大変な手間と時間がかかっていました」と池上次長は振り返る。



池上次長

段ボールケースに入った製品を11型パレットに収まるサイズで逆さまに14型パレットに載せ、製品倉庫で保管する。出荷時はパレットチェンジャーで半回転させて運送業者が持参した11型パレットに載せ替え、トラックに積み込む。

これまでバラ積みだった12ftコンテナも、今年から一部の配達先に向けて日本パレットレンタル(株)(JPR)のレンタルパレットを使った発送が始まった。

長谷川総合アドバイザーは「組合の契約先は主に特約販

売店で、パレットが到着する配達先の量販店と直接の取引がないことから、これまではパレットの導入を見送ってきました。しかし、配達先のドライバー確保が難しくなってきたことや、年々暑さが増すなかで出荷作業に従事する方の安全を考慮し、JPRや運送業者の皆さんの協力を得て、この春から運用を開始しています」と経緯を説明する。

12ftコンテナにはバラ積みで550ケース入る。パレットの分の積載量が減るものの、作業効率が向上したことで運賃の値上げ抑制につながった例もあるという。パレットのレンタル費用を考慮してもメリットがあることから、今後は未対応の配達先にもパレット導入を広げていく考えだ。

最後に池上次長は「労働力不足に加え、自然災害の増加により輸送業務は先を読みづらく、複雑で困難になっています。これからも『揖保乃糸』を求める販売店や消費者の皆さんの期待に応えていくためには、関係者間のコミュニケーションと、効率的な物流体制の構築がますます重要になります。製品倉庫と出荷量の半分の占める鉄道コンテナ輸送は、物流の起点にあたります。パレット化の進展でフォークリフトの使用も増えていることから、安全を確保しつつ、スムーズな出荷体制の整備に引き続き取り組んでいきます」と結んだ。



14型パレットに逆さで保管



11型パレットを載せパレットチェンジャーへ



半回転させて11型パレットに移し替え完了

